

目指す学校像	SSH指定校として「自主・自律・創造」の校訓のもと、自ら育んだ高い「志」を実現し、次代を担い国際社会をリードする人材を育成する。
--------	--

重点目標	1 SSH指定校としての取組を起点に、全校生徒の「志」を育み、一人ひとりの第一志望の進路を実現する。 2 自ら課題を発見し、解決する主体的な学習態度を育てるとともに、授業の質を向上させ、社会のリーダーとなる確かな学力を身に付けさせる。 3 北高生としての品格を高め、健全な心身と豊かな人間性を育む。 4 地域の理数教育拠点校として活動すると同時に、グローバルな研究活動を展開して国際社会へ開かれた学校に発展させる。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

校 自 己 評 価						学校関係者評価			
年 度 目 標				年 度 評 価		実施日平成29年2月14日			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策		
1	<現状> ○理数科3年目の完成年度を迎え、SSHに指定された。27年度は、科学の甲子園に2チーム、数学オリンピックに11名と参加が増えるなど、「知」の意識は高まっている。 ○平成26、27年度に「勉強マラソン」を年5回実施し、27年度は、全生徒の5割超が参加、全校での取組となり、審査前の学習への切替えなどが改善されてきている。 ○サタデースペシャルは生徒から一定の評価を受けている。 ○入学時の国立志望が7割を超えているにもかかわらず、実際の進学実績は満足できるものではない。平成28年度は国立大学への合格者が前年度に及ばなかった。 ○生徒の学習姿勢と学習習慣については徐々に高まりを見せているが、家庭学習時間等が十分ではない面があり、意識を一層高める必要がある。 <課題> ○SSH1年目の取組を堅実に進める。 ○明確な高い「志」を抱かせ、実現できる環境を整備する。 ○家庭学習時間を確保する。	SSH校としての取り組みを進める	①普通科を含めた全校での講義、研究活動、小中連携等取組を推進。 ②校内活動や校外連携を進める校内体制の整備。 ③他のSSH校、理数科設置校等とのネットワーク事業の実施。 高い「志」の育成と進路実現 ①質の高い行事や校外活動を検討実施し、知的好奇心を向上。 ②進路指導部と教科・学年による組織的、計画的なキャリア教育を通して、将来にわたる高い「志」を育成。 ③ICTを活用できる自習室などの整備。 ④スタディーサブリの活用。 ⑤「北高手帳」を活用して学習習慣等を確立するよう担任・部活動顧問等から指導。 ⑥面談などを密に実施し、生徒が最後までやり抜く心をバックアップ。メンタルケアの実施。	①SSH関係の講義等を実施したか。 ①各行事に普通科生徒が参加したか。 ②SSH活動組織を構築し、大学や研究機関と連携した取組を実施したか。 ③他のSSH校等と連携事業を進めたか。 ①行事や活動に参加して興味関心が高まったとする生徒が8割を超えたか。 ②1年生で具体的な志望大学を目標として設定し、将来を展望できるようになったか。 ③ICT自習室を整備したか。 ④スタディーサブリの継続的利用が、8割を超えたか。 ⑤北高手帳活用で、家庭学習時間を「学年の数+1時間」以上確保できたか。 ⑥受験・学習のプレッシャー等に教育相談等で対応できたか。 ○国立大学合格者が25名以上だったか。	大学や研究機関等と連携をとって講演会や臨海実習などを実施した。普通科の生徒も参加し、学校全体での取り組みが進んでいる。 ①ICTラーニングルームを1教室増設するなど、学習環境の整備を進めることができた。 ②各種行事も推進し、1年生からキャリア教育を推進し、志望大学を具体的に考える機会を与えるなど、志の育成を進め、生徒の進路意識や知的要求も高まっている。 ③スタディーサブリについては浸透してきているが今後さらに活用を進める。 ④国立大学志望者数は昨年度に比して3倍以上となっている。	A	SSH行事の開拓と精選を進め、大学や研究機関等との連携も強める。普通科文系の生徒まで含め学校全体としての取組を進め、科学的な素養を一層向上する。 B 普通科でのタブレット導入など、学習環境を一層整備し、スタディサブリの活用など、生徒の学習意欲の向上、家庭での計画的学習の確保などをさらに推進する。国立大学希望者をさらに大きく増やし、進路実績も向上させる。	○今年度、国からSSHに指定され、より積極的に高い教育活動に取り組める環境になったことは嬉しい。 ○SSH事業を中心に、学校全体の意識が高まってきていることがうかがえるが、今後も取組を推進し、さらに生徒、教師の意識を高めて欲しい。 ○この春に、理数科から初めて卒業生が巣立っていくが、理数科の設置により、学校全体の進路意識も高まっているとのことである。良い結果が出ることで、将来の日本を支える人材が出て欲しい。	
2	<現状> ○平成27年度は、SS科学総合や講演会で、生徒に効果的な学習法を身に付ける機会を与えた。 ○理数科では平成27年度から「課題研究」を実施した。平成28年度は全校で「理数探究」として研究活動を実施する。 ○全HR教室に電子黒板機能付きプロジェクタ、ICTラーニングルームなどの教育環境が整備された。 理数科生徒には、一人一台のタブレット端末も支給した。 ○授業アンケートを実施し、結果は各教員に返している。 ○行事精選、土曜授業実施、34単位時間割などで授業時間を確保している。 <課題> ○生徒に学習法を確立させる。 ○「数理探究」を通して課題設定・解決能力を育成する。 ○ICT活用を推進し、アクティブラーニングによる主体的な学びを進める。 ○授業アンケートを分析し、授業の質を高める。	「数理探究」を柱としたアクティブラーニング	①「科学的理論に基づいた効果的な学習法」を学ばせることで、効率的な学習法を確立。 ②「数理探究」で、生徒が主体的に学習課題を見つけ、データ収集できるように、面接や個別指導を実施。 ③「数理探究」で、班内や教員との十分なディスカッションで、論理的な分析、計画的な課題解決力を育成。共同作業により、協調性も育成。 ④ICTを活用し、生徒の能動的・活動的な学習、アクティブラーニングを積極的に展開。 ⑤数理探究や修学旅行の事前・事後学習の発表、ディスカッション等でICTを積極的に活用。	①HR合宿の学習ガイダンスやSS科学総合・講演会で学習法を学ばせたか。 ②研究主題について、班内、指導教員とで検討、討議が十分なされたか。 ③論理的に仮説を立て、それに基づいた研究計画が作成されたか。 ④研究活動での、班内分担や共同作業が円滑に行われたか。 ⑤ICTを活用し、アクティブラーニングを実践した教員が半数を超えたか。 ⑥HRや総合的な学習の時間等でICT活用し、生徒がスキルアップしたか。	数理探究は、数理探究担当者が授業について打ち合わせながら、複数教科の教員がTで指導する形で実施した。 生徒も広い分野から自分でテーマを設定し、生徒同士が互いに情報交換をしながらデータを収集して研究をまとめ、発表することができた。 ④教員のICT活用も昨年度に比べ大きく増加し、大半の教員が授業で使用している。 学校全体として、ICT環境の活用とスキルアップが進んでいる。	A	数理探究を柱として学ぶ、生徒が自ら課題を設定し、解決する学習姿勢を他教科の学習にも広げる。また、ICT機器を活用した授業や発表会などを実施することで、一層コミュニケーション力やディスカッション力などを高める。	○これからの社会で必要とされる基本的な学習姿勢や、思考力等を高めることが学校に求められている。 ○すばらしいICT環境が学校に整備されており、活用を進めている様子がうかがえる。今後も一層効果的に活用して生徒の学力を高めてもらいたい。 ○文系、理系に関わらず、論理的に考えて、それを相手に伝えること、相手の考えをしっかりと理解する力をしっかりと養ってもらいたい。	
3	<現状> ○「自律」の精神を養うべく指導、携帯電話の使用や服装などの面で、落ち着いた様子が見られる。 ○大きな交通事故はなかったが、無くすことはできなかった。 ○教育相談は満足できる取組ではなかった。しかし、修学旅行前カウンセリングが進むなど、良い方向に向かっている。 <課題> ○服装指導等を一層推進する。 ○交通事故を無くす。 ○教育相談体制を充実させる。	自律ある行動と交通事故の防止	①生徒会や風紀委員も交えた取組による、健全に学習に取り組める環境作りの推進。 ②大宮警察等とも連携し、交通ルール遵守や交通安全意識を向上。 ③スクアドストレイトの実施。	①風紀委員による通信等を発行したか。 ②近隣からの苦情が減少したか。 ③スクアドストレイトを実施したか。 ○交通事故「零」になったか。	交通事故については、大きなものはなかったが、残念ながら「零」にはできなかった。 ○スクアドストレイトの実施ができなかった。 今年度は、教育相談体制を整え、教育相談委員会を定期的に開催できた。カウンセラー同士の連携もうまくなっている。	B	生徒が主体的に安心・安全な学校生活を意識した生活が送れるような指導を意識して進める。スクアドストレイトも実施する。	○安全確保は、学校生活の基本となることなので、今後も力を入れてもらいたい。 ○今の子供たちはいろいろなことに悩むことも多く、その相談を受けるシステムは重要なことである。目配り、気配りを大切にしてほしい。	
4	<現状> ○体験授業を普通科科目でも実施した。 ○60周年記念事業を実施した。 ○地域の商業施設での学校紹介を実施した。 ○小中学校へのアウトリーチ活動では、関係者から活動が評価され、新聞やテレビでも取りあげられた。 ○海外修学旅行や海外サイエンス研修、オーストラリア派遣事業などの取組を円滑に実施した。 ○科学英語講座は、長期休業中に集中講座を実施。年度末には、纏めとしてポスターセッションを実施した。 <課題> ○「地域の理数教育拠点」の役割を一層充実させる ○HPや商業施設等も活用し、広報をさらに進める。 ○国際交流事業を一層充実させ、海外の高校との連携による共同研究を展開する。 ○英語講座・国際関係講義等を充実させる。	SSH指定校としての地域の「理数教育」拠点	①小学生対象「夏休み自由研究サポートプログラム」の実施。中学生対象「科学部研究コンテスト」の実施。「視望会」の実施。 ②小中学校の要望を踏まえたアウトリーチを検討 ③「HP」や「体験授業」「学校説明会」、「商業施設」などで教育活動内容を積極的に発信。	①②アウトリーチ活動で、本校生、小・中学校生それぞれの満足度が9割を超えたか。 ②小中学校と情報交換会を持てたか。 ③職員全員で広報活動を実施したか。 ④商業施設で広報活動が実施したか。 ○志願倍率が増加したか。	①②国際交流事業は、順調に進められたか。 ①海外の学生との共同研究、フィールドワークが実施できたか。 ③講演会を実施したか。 ④科学英語講座受講者が、英語で発表、プレゼンテーションを実践したか。 ④SSH生徒発表会で、参加生徒が海外校の発表において意見交換等を行ったか。 ⑤海外高校生と共同研究等を実施したか。 ⑥留学生活用プログラムを実施できたか。	小学生対象の「夏休み自由研究お助け隊」(実験教室)や天体観望会、中学生対象の体験授業などのアウトリーチ活動を積極的に展開できた。 9割には届かなかったが、参加者の感想でも満足度が高く、又参加したいという記述も多く、概ね高評価であった。 本校への志願希望者は、中間調査において昨年度を大きく上回っている。	A	再参加したいという希望も多いので、アウトリーチ活動についてはさらに進める。また、例えば中学校間を結びつける横の橋渡しとしての役割なども果たせる道を探っていく。志望者をさらに増加させる。	○今年度もアウトリーチ活動では良い経験をさせてもらった。今後も連携を進めて互いが高めあう関係を進めていきたい。 ○新聞などにも取り組みが取り上げられており、活動が注目されている。良いことである。 ○国際社会が日々変動する中、確かな目を持って世界を見られる人材、そこで活躍する人材を育てて欲しい。英語の講座等は、積極的に実施し、生徒の参加も増えるとうい。

